



▲石鎚ふれあいの里に設置してある耐震木製構造物の内部

耐震木製構造物を展示しています

荒廃した山林の間伐を促進することで、水を育てる山の再生・保全と、災害に強い森づくりをめざすため、市では京都大学大学院地球環境学堂の指導を受け、山間部の間伐材を利用した木製ダムや耐震木製構造物の研究などに取り組んでいます。

今年3月には大保木地区の皆さんのご協力をいただき、西条建設業協同組合と協働して石鎚ふれあいの里に耐震木製構造物を設置しました。この構造物は、阪神・淡路大震災や今後発生が懸念されている南海地震など、震度7クラスの地震にも耐えられる構造となっています。JR伊予西条駅横の観光交流センターには、耐震木製構造物の仕組みが分かる骨組みの模型を展示しています。お近くにお出かけの際は、ぜひご覧ください。